

## 生物多様性保全

当社は、生物多様性が将来の持続可能な社会にとって重要であることをより深く認識し、国際社会の一員として、全ての人々との間で役割と責任を分かち合い、連携・協力して生物多様性の保全に資する行動を進めるために、「日産化学生物多様性行動指針」を策定しています。また、2015年10月から、生物多様性の取り組みを推進するため、生物多様性民間参画パートナーシップに参加しています。

## 生物多様性行動指針

当社グループは、「優れた技術と商品・サービスにより、環境との調和を図りながら、社会に貢献する」という企業理念のもと、地球環境の保全に寄与するため、生物多様性に配慮した事業活動を展開します。

1. 製品サイクルにおける生物多様性への影響を把握・分析・評価し、その低減を図ることで、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用に取り組みます。
2. レスポンシブル・ケア活動を通じ、社員一人ひとりの生物多様性に対する意識向上に努めます。
3. 社会から高い評価と信頼が得られるよう、生物多様性の保全に資する社会貢献活動を継続的にを行います。
4. 以上の取り組みの結果を公表し、社会とのコミュニケーションを深めます。

## 当社での生物多様性の取り組み

### 富山工場「日産バイオパーク西本郷」

富山工場が運営する「日産バイオパーク西本郷」は、約2ヘクタールの土地に芝生広場や湿地・池・小川・花畑が配置され、近隣住民・工場OB・社員の協力の下、ホタルやカブトムシの育成、および絶滅危惧種であるニホンメダカの繁殖も手掛けています。また、近隣保育園の園児によるチューリップの花摘みや球根掘り、小学生による自然観察学習も行われています。



小学生による自然観察学習

名古屋工場  
「藤前干潟クリーン大作戦」  
(TOPICS参照)

### 物質科学研究所「敷地内の松林の保全」

物質科学研究所は元々自然豊かだった千葉県船橋市の北西部に立地していますが、近年は交通の便も良いなどの理由から、宅地化が進んでいます。そうした中、当研究所では、1971年の設立当初から敷地内南側に広がっていた松林を保存すべく、現在も保全活動に取り組んでいます。



米国・NCA  
「アーモンドバイユー」  
自然センターメンバーシップ

本社・生物科学研究所  
「黒浜沼周辺の自然を大切に  
する会」支援 (TOPICS参照)

袖ヶ浦工場  
「ヒメコマツ系統保存サポーター」

袖ヶ浦工場では、千葉県が「最重要保護生物」に選定した絶滅危惧種「ヒメコマツ」の保護回復への取り組みに参加し、昨年から「ヒメコマツ」を育てています。順調に育ち、新葉も出てきました。



## TOPICS

### 名古屋工場 「藤前干潟クリーン大作戦」

名古屋工場では、2016年5月から社員、協力会社の皆さんの賛同を得て、工場の近くに位置し、ラムサール条約登録湿地である、藤前干潟で行われているクリーン大作戦(春、秋の2回/年)に参加しています。

2004年に「ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする」、「子供達が安心して遊べる干潟や川を取り戻す」、「流域全体のゴミや水のことを考えるネットワークを形成する」ことを目的に、4市民団体が行政、企業などと協働して「流域市民・市民団体による」クリーン作戦を行うために、「藤前干潟クリーン大作戦実行委員会」を結成し、活動が開始されました。

今後も生物多様性保全への取り組みとして、渡り鳥が長い旅の中継地として集う貴重な干潟の保全に微力ながら貢献していきます。



## TOPICS

### 本社・生物科学研究所「黒浜沼周辺の自然を大切にする会」支援

当社は2016年度より埼玉県蓮田市のNPO法人「黒浜沼周辺の自然を大切にする会」への支援を行っています。当会は「さいたま緑のトラスト協会」のトラスト保全11号地に指定されている黒浜沼周辺の自然環境を守り、絶滅危惧種の育成などの生物多様性保全活動を長年にわたり行っています。毎年、当社のCSR・広報室、環境安全・品質保証部および生物科学研究所から、当会が管理する蓮田市の環境学習館を訪問し、生物多様性保全に関して意見交換を行っています。さらに、2018年は生物多様性保全への理解を深めるべく、「さいたま緑のトラスト黒浜沼周辺の集い」に参加し、当トラスト協会理事長・東京大学名誉教授・太田猛彦先生の講演会「森林・自然の歴史と現状に向けて」により森林保全を学び、自然観察会にて野鳥観察を体験しました。

黒浜沼の乾燥化、外来種の繁殖による在来種の減少、会員の高齢化等の課題に直面しながらも地域に根差した地道な活動を続ける当会を今後もサポートして行きます。



▲生物多様性活動に関する対話活動



▲野鳥観察会



▲黒浜沼の乾燥を防ぐ水田